## 西丹沢 東沢本棚沢

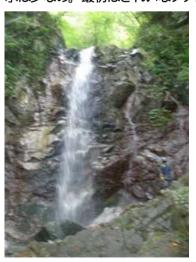
期間:2009年9月27日 メンバー:斎藤(L)野澤(記)

ずっと夢に見てきた西丹沢の大滝。しかし、 今の自分の実力では厳しすぎる。最近アルパ インクライミングを頑張っている斎藤さんに 声をかけてみたところOKが出る。

西丹沢自然教室 8:00頃着。ゴーラ沢出合で沢道具に着替え出発。大小10個ほどの堰堤を越えて、林道の橋が見えるところから遡行開始となる。



水は少なめ。最初はきれいなナメ。



少し歩くとF2 10m。水流の右の濡れた岩場を登る。当然ザイルを出す。トラバースの大事なところが浮石らしい。斎藤さんが慎重にリードした。

F 3 本棚 (写真を撮ることも忘れた) 残置ピンがほとんど見当たらない。水流の左 に1個発見。ここから取り付く。2個目は水 流間際に発見。次が無い!上は更に傾斜がき つく登れそうにない。水流の中に足場が見え るが次が見えない。トップの斉藤さん、水流 の真ん中で悩んでいる。ハーケンも打てそう なところが無い。勇気を出して一段上がり、 水流の真ん中から抜ける。その先も濡れてい る。ハーケンを打つも手ごたえのない音。無 いよりはマシとばかりに2箇所に打って登り きる。セカンドで行く。2本目の残置ハーケ ンは少し上に登ったところ何もしなくても抜 けてしまった。トップも手こずっていた水流 の真ん中で登れず止まってしまう。どうやっ て登ったの?水の冷たさをどんどん感じてき た。早く乗り切らねば。勇気を出して踏み込 み突破した。残り2枚のハーケンは、バイル が要らず指で抜けた。本棚は手ごわい! とにかくビレイが取れないのだ。私ならば巻 いているところ。

F 6 横の大岩までは、どれが滝か分からなかった。ただし、5 mほどの涸れ滝は崩壊が進んでおりつかんだ岩が大きくはがれた。

油断がならない。

ガイド本ではルンゼを登るとおくだったが、大が多さというではいる。登りというではよがないますがあるとF6上があるとをもないがあるとをもない。



慎重に進む。 F 6 のすぐ先に F 7 4 5 mの 涸れ滝だ。 フラットソールに履き替える。



岩は乾いて快適だが、ピンが錆び錆びでしかもひん曲がっている。斉藤さん曰く相当古い商品らしく危なくてしょうがないと。持っていたハーケンをどんどん打っていく。足りる?この滝に来るときは、ハーケンとヌンチャクは豊富に持ってきた方が良さそうだ。しかし、そんなに危ないところもなく登りきれた。そのまま、F8、F9と登り終了。14:10。



終了点では、紅葉が始まっていた。 予想通りの手ごわさだったねと、登りきった 感激に浸る。

最後は、途中から尾根に上ったが沢を詰めて も同じ尾根に出た。 最後は、檜洞丸の頂上へダイレクトに出る。 後はツツジ新道を通り下山。

付き合ってくれた斎藤さんに ただただ感謝!

## おまけ:

デジカメ用の防水カバーを買ったので使って みた。端に黒い部分が写っているのはレンズ の出っ張りを吸収するカバー部が写ってしま ったからだ。

写す時にこの部分の固定方法も分かり、最後 の方は結構楽に写真が撮れた。

これは意外と使えるぞ! 防水カメラを持っていない人に紹介してみよう!